



同展は世界最大級の蘭展です。17回を数える今年は20を越す国・地域から作品が集まりました。会期は2月24日から3月4日までで、期間中、約40万人の来場者で賑わいました。

小泉進さんが出品した作品はデンドロビウム原種で、花の総数が4000あまりの超大作「ゴールドシュミティアナム コイズミ」

毎日の暮らしの中で、いつも蘭の事ばかり考えています。朝起きてすぐ温室に入り2時間ほど過ごし、1日に、4・5回温室を出入りします。通算で4時間以上は手を掛けています。
中野渡市長(手前)に受賞報告したとき



蘭は私にとって家族のような存在です。

小泉進さん (70歳)

「世界らん展日本大賞2007」において、最高賞である「日本大賞」に輝いた小泉さんに、蘭への思いを伺いました。

Q 蘭を作り始めたきっかけは？

幼少の頃から花に興味があり、畑の新芽の生命力を感じて自然と花を植えるのが好きになりました。

初めは盆栽をやっていました。自分には絵心がないので、いい作品に仕上げるのができませんでした。

Q 蘭をうまく育てるコツは？

目立った事はしていませんが、蘭のことをいつも考えています。花を楽しむか、育てるのを楽しむか。育てるのを楽しまないと、いい花をつけてはくれない。将来、蘭にどんな花をつけて欲しいか、5年後、10年後の期間で、育てていく必要があります。丈夫にたくさんのお花をつけて欲しい、その思いがいい作品を生み出すと信じています。

Q 今年の作品で大賞をとる自信はありましたか？

奨励賞を取ればいいと考えていましたが、夢にも思わない大賞にあぜん今年の花のつき具合がよくなかったので、出展するのを断念しようと考えていました。自分としては最高の状態で、花をつかせることができなかつたのが悔やまれます。

最後に一言

もう1度違う株で大賞を狙いたい。生涯、蘭と楽しく生きて行きます。

日本大賞の賞状や盾



群がって咲く可憐な花



自宅温室にて